

不都合な現実

小沢疑惑のカギを握る「キーマン」が日刊ゲンダイに“衝撃”告白。

その人物は、7日初公判の「陸山会」をめぐる政治資金規正法違反事件で、衆院議員・石川知裕被告（37）や大久保隆規被告（49）らに「裏ガネ1億円を渡したと証言した」と報じられた水谷建設（三重県）元会長の水谷功氏

（65）である。1月31日、「強制起訴」された小沢元代表の事件でも、核心は「水谷証言」にたどり着く。水谷会長の口から出た言葉は驚きの内容です。

●「（1億円裏ガネ証言は）ワケ分かりません」

「水谷建設側が04年10月と05年春の2回にわたって、小沢秘書に5000万円ずつ、計1億円を渡した。岩手の胆沢ダム関連工事を受注した謝礼だった」

09年11月から、大新聞テレビで一斉報道が始まった「水谷建設裏ガネ疑惑」。大マスコミは「検察リーク」に乗っかり、以来、このカネが「陸山会が購入した世田谷の土地資金の原資になった」と決め付け、「小沢悪者キャンペーン」を展開してきた。検察の“ネタ元”とされたの

小沢悪者キャンペーン

が、水谷元会長だった。

「脱税で三重刑務所に服役していた水谷元会長に、東京地検特捜部の検事が会いに行ったのは、09年夏ごろ。当時、西松建設をめぐるダミー団体献金事件で、小沢氏の第1秘書の大久保被告を逮捕・起訴したが、検察側のシナリオ通りに裁判が進まず、困り果て、すがったのが水谷元会長だったといわれています」（司法ジャーナリスト）

「水谷証言」が本当なら、

欧米や中国の天才の一部は、日本の特殊性に気付いています。

国家の人口や保有資源量を考慮しても、日本の

実質GDPや経済の質は、アメリカを遥かに凌駕する圧倒的な内容を日本が持つことに、一部の中国機関も調

小沢は即、逮捕・起訴されていただろう。ところが、検察は1年以上、捜査したが何の証拠も見つけられず、結局は不起訴。「水谷証言」はいつの間にか雲散霧消し、大新聞テレビも報道自体を忘れてしまったかのようだ。しかし、あれだけ国民、世論を“誘導”した重大証言をこのまま闇に葬り去る事は許されない。



●「石川（議員）の『イ』の字もしりません」

現在、刑を

終えて出所した水谷元会長を直撃した。

・記者・「裏ガネ疑惑、証言内容は本当だったのか」
・水谷氏・「分かんないよ」

査を始めているようだ。

国民の質、平均的文化水準は言うに及ばない。

「水谷証言」

見えない所で、圧倒的な努力を積み重ねている。時代を引き継ぐ十代の世代に日本人が持つ本能的な草の根

知らないよ」

・記者・「04年と05年の2回、石川、大久保両被告に水谷建設がカネを渡したと報じられています」

・水谷氏・「石川、大久保なんて会ったこともない。石川被告の顔は報道でクロージアアップされて知っているが、それまで石川のイの字も知らなかった」

・記者・「大新聞テレビでは、これまで、水谷氏が検事に『カネを渡したことを証言』などと報じられてきた。これは誤報ということですか」
・水谷氏・「何がどうなのか。ワケが分かんないよ」

検察はなぜか、水谷氏を証人申請していない。「主役」を抜きにして、「裏ガネ疑惑」をどう立証するのだろうか。

文化が、映画の奥から垣間見え感動する。

元氣なのは政治、役人から全く無縁の所です。日本の明日が読み取れます。それにしても、

嘘つきの「だら菅」では日本の不幸です。



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年2月21日(月) NO 170

地域から明るい未来を作ろう